

「高齢者」専門部会

～ 調査検討経過について～

- 1 「高齢者」の専門部会～調査検討経過について～ P 1
- 2 課題解決のための調査検討シート P 3
(元気高齢者の地域参加)
- 3 「老人いこいの家」アンケート結果 P 5

アンケート集計概要	P 5
運営委員アンケート集計表	P 9
運営委員アンケート考察	P 17
運営委員アンケート	P 23
利用者アンケート集計表	P 27
利用者アンケート考察	P 33
利用者アンケート	P 37

- 4 「老人いこいの家」活性化に向けた提案 P 41
- 5 課題解決のための調査検討シート P 43
(高齢者の見守り)

「高齢者」専門部会～調査検討経過について～

区 分		調査検討内容等
会議名	年月日	
第5回区民会議	19.6.6	・専門部会の設置を決定
第1回専門部会	19.7.4	・正副部会長の選出 ・部会名称の決定 ・現状の把握 ・調査事例の絞り込み
第1回勉強会	19.7.19	・現状の把握 ・次に調査検討する事例の選定(事例 を優先)
【アンケート(案)の検討】	～ 19.8.20	各委員による老人いこいの家に関するアンケート(案)の作成
第2回専門部会	19.8.31	・事例 の調査検討
第2回勉強会	19.9.18	・片平老人いこいの家の見学 ・事例 の調査検討
第6回区民会議	19.10.5	・調査検討経過の報告
【所管課へ協力依頼】	19.10.15	・所管課(健康福祉局高齢者在宅サービス課)に協力を依頼
第3回専門部会	19.10.16	・事例 の調査検討 ・事例 の調査検討
第3回勉強会	19.10.25	・事例 の調査検討
【指定管理者へ協力依頼】	19.10.30 19.10.31	・麻生区社会福祉協議会及び神奈川高齢者生活協同組合に協力を依頼
【指定管理者から回答】	19.11.5 19.11.8	・麻生区社会福祉協議会及び神奈川高齢者生活協同組合から回答
第4回専門部会	19.11.9	・事例 の調査検討
第5回専門部会	19.11.28	・事例 の調査検討
【指定管理者から再回答】	19.12.6	・麻生区社会福祉協議会及び神奈川高齢者生活協同組合から再回答
【指定管理者との協議】	19.12.17	・麻生区社会福祉協議会及び神奈川高齢者生活協同組合とアンケート実施に向けた協議

事例	元気高齢者の地域参加	事例	高齢者の見守り
・現状の取組等の把握		・現状の取組等の把握	
・現状の取組等の把握 ・高齢者が集える場の確保→老人いこいの家の活用→利用者及び運営委員会アンケートの検討		・現状の取組等の把握 ・解決策のアイデア出し	
・老人いこいの家の現状の把握 ・アンケートの趣旨、対象、内容等の検討			
・施設見学による実態把握(管理人からの意見聴取を含む) 施設・設備面、運営面、利用状況等 ・アンケート内容の検討			
・アンケート実施についての承認			
・アンケートの趣旨、対象、内容、実施方法等の検討		・現在地域で展開されている事業の紹介 ・今後調査・検討を進める上での問題提起	
・アンケートの対象、内容、方法、実施スケジュールの確定 ・指定管理者、所管課への協力依頼			
・指定管理者からの回答を受けて今後の進め方について検討→指定管理者に関係者として部会への出席を依頼し、意見を聴取することを決定			
・指定管理者、所管課からの意見聴取 ・アンケート実施に向け再度協力依頼することを決定			

区 分		調査検討内容等	事例 元気高齢者の地域参加	事例 高齢者の見守り
会議名	年月日			
第7回区民会議	19.12.20	・調査検討経過の報告	・指定管理者、市所管課から意見聴取した結果を報告 ・1月下旬に利用者、運営委員アンケートを実施	・地域で展開されている事業の現状把握を実施
【指定管理者へ協力依頼】	19.12.28	・指定管理者にアンケートの実施を依頼(実施時期 - 1月下旬)		
第6回専門部会	20.1.10	・事例 の調査検討	・アンケート実施方法の確認 ・アンケートの集計・分析、まとめ方の検討	
【アンケート実施】	20.1.21 ~ 2.1	・利用者アンケート→委員が施設に出向き聞き取り方式で実施(1施設あたり50件) ・運営委員アンケート→郵送方式で実施(2/1締切、対象89委員)		
第7回専門部会	20.2.4	・事例 の調査検討 ・事例 の調査検討	・利用者アンケート(速報値)結果の確認、意見交換→次回部会までに各委員が意見をまとめる ・運営委員アンケート→次回部会までに集計する	・次回部会で現状把握のためのビデオ(認知症サポーター養成講座用)視聴することを決定
第4回勉強会	20.2.12	・事例 の調査検討 ・事例 の調査検討	・運営委員アンケート結果の確認、意見交換 ・アンケート結果分析シートへの記入	・ビデオ視聴により要介護高齢者を取り巻く現状を認識 ・今任期中で課題解決策まで提案するのは困難
区民フォーラム	20.2.23	・調査検討経過報告		
第8回専門部会	20.2.25	・事例 の調査検討	・アンケート結果分析シートによりハード系、ソフト系に分けて意見交換、取りまとめに向けた集約	
第5回勉強会	20.3.6	・事例 の調査検討	・アンケート結果、課題解決に向けた提案の取りまとめ	
第9回専門部会	20.3.13	・事例 の調査検討	・アンケート結果、課題解決に向けた提案の取りまとめ	
第8回区民会議	20.3.24	・調査検討経過の報告		

区の課題

課題解決のための調査検討シート

～「高齢者」専門部会～

1. 区の課題

標題

『心が響きあう地域づくり』
事例～高齢者が輝く地域づくり

課題の内容

～元気高齢者の地域参加や高齢者の見守りを通じて、どのように「地域づくり」につなげていくか～

[事例の絞込み]

元気高齢者の地域参加
高齢者の見守り

2. 課題に対する現状の行政・区民等の取り組み

行政の取り組み
生涯現役対策事業（高齢者福祉のしおりP63～69）

ア 生涯現役支援サービス
イ 老人クラブ
ウ 老人いきいの家
エ 老人福祉センター
オ 高齢者無料職業紹介 など

区民等の取り組み

ア ふれあいサロン
イ サークル活動
ウ ボランティア活動 など

3. 課題の解決策のアイデア

高齢者が集える場の確保

ア 地域にある既存施設の活用

【老人いきいの家の活用】

- ・指定管理者からの意見聴取
[神奈川高齢者生活協同組合]
[麻生区社会福祉協議会]
(19.11.28)
- ・所管課からの意見聴取
(19.11.28)
- ・利用者及び運営委員アンケートの実施
[利用者]
20.1.18～2.1 委員による聞き取り調査を実施
[運営委員]
20.1.18～2.1 郵送方式で実施

イ 既存施設を活用した高齢者カフェやスナックの設置

趣味などを通じて知り合う
(イベントや各種の教室などの開催)

公共施設に高齢者資料コーナーを設置する
(区役所ロビーなど)

4. 課題解決策の具体化に向けた検討

短期的対応策

ア 「老人いきいの家」アンケート結果の取りまとめ、情報の提供（行政、指定管理者、運営委員、利用者、地域の関係団体、区民等）

イ 「老人いきいの家」活性化に向けた提案（短期的提案）

■達成期間
平成20年度～

■主な担い手と役割
○区民

○区

○市

提別案紙「活
性と化
りに向
けた

■予算見込
額の検討

■予算確保
の手法

■関係部局・機関等
・健康福祉局
・指定管理者

中・長期的対応策

ア 「老人いきいの家」活性化に向けた提案（中・長期的提案）

■達成期間
平成22年度～

■主な担い手と役割
○区民

○区

○市

提別案紙「活
性と化
りに向
けた

■予算見込
み額の検討

■予算確保
の手法

■関係部局・機関等
・健康福祉局
・指定管理者

5. 課題解決により期待される効果、成果

ア 元気高齢者の地域活動への参加促進

イ 地域の既存施設の有効活用

ウ 「老人いきいの家」の利用促進、活性化

6. 総合計画上の位置付け

ア 幸せな暮らしを共に支えるまちづくり

イ 参加と協働による市民自治のまちづくり

7. 課題解決に向けた取組

ア 「老人いきいの家」活性化に向けた提案

イ アンケート結果の提供 → 行政、指定管理者、運営委員、利用者、地域の関係団体、区民等

8. 課題解決への取組

の評価、進行管理

評価

進行管理

「老人いこいの家」アンケート集計概要

項 目		運 営 委 員	利 用 者
問 1	性別	男性：60%（36 人）各施設とも男性の委員が多い 女性：38.3%（23 人）	男性：33%（105 人）女性の利用が多い 女性：67%（213 人）
問 2	年齢	70～75 歳未満 35% 65～70 歳未満 26.7% 50～60 歳未満 15%：50～75 歳未満と幅広い	70～75 歳 28% 65～70 歳未満 20.8% 75～80 歳未満 19.8% 運営委員と同年齢多い
問 3	経験	2～3 年未満 25% 5～7 年未満 18.3% 3～5 年未満 15% ようやく慣れて見える年輪	
	家族構成		配偶者と二人 51.3% 二世帯 23.6% 一人 15.4% 年齢の高い女性の一人暮らし
問 4	動機	団体推薦 71.2% ボランティア 9.1% 地域の協力者 9.1% 団体の推薦が多い	
	住所		区内 94% 区外 5.3% 圧倒的に区内居住者の利用が多い
問 5	他活動		参加 61.9% 不参加 33.6% 趣味・教養・娯楽 ボランティア活動 地域活動 他の施設で活動等
問 6	関心		健康 69.8% 年金 8.3% 趣味 7.5% 家族 6.5% 圧倒的に健康に関心が深い
問 1	人数	現状 80% 多い 15% 少ない 3.3% 圧倒的に現状のままの人数がよいと回答 人数：13 人-1 施設 14 人-2 15 人-2 18 人-1	
	動機		友人の誘い 40.3% 人づて 26.4% その他 17% 広報誌 12.6% 社協・民生委員等の関係から 近所だから 講座等へ参加から
問 2	回数	現状 58.3% 少ない 30% 多い 11.7% 現状維持が多い。少ない、多いという判断基準がある とよい。1 回：1 施設 2 回：1 3 回：3 7 回：1 基準があるとよい。	
	方法		徒歩 62.9%（15 分未満多い） その他 27% （電車・バスの利用） 自転車等 8.2%
問 3	時間	現状 78.3% 要改善 20%（平日の開館時間の 延長（→17 時、→夜間まで） 日・祭日開館）	
	期間		5 年以上 46.2% 3 年以上 23.3% 1 年 以上 19.5% 1 年未満 9.4%
問 4	設備	現状維持 53.3% 要改善 40%（入浴施設の 廃止、台所の改善、カラオケ機器の改善、他）	
	回数		週 51.3%（1・2・3・4 回以上） 月 45.9% （2・4 以上・3・1 回）常連の利用者が多い
問 5	運営費	現状維持 50% 要改善 43.3%（予算増額、管理 人増、講師謝礼増額、修繕費増額、利用料の徴収 他）	
	利用法		グループ 68.2% 個人 16.7% グループと 個人 9.1% 圧倒的にグループ利用が多い
問 6-1	取組	広報 15.1% 教養講座 14.2% 改修 12.3% その他 11.3%（おしゃべり会、周りの山林清掃他）	
	過ごし方		その他 26.1%（趣味・教養・娯楽 他） 講座 16.4% 囲碁 13.1% 談話 12.1%
問 6-2	できない理由	未回答 69.2% 資金不足 18.5%（予算不足） 規定 7.7%（謝礼に制約電気の契約）（委員長のやる気ない）	

問7 改善	未回答 65% 有回答 35%(運営委員会が機能していない、駐車場設置、人材確保、他)	
感想		満足 48.4% やや満足 39.9% (楽しく過ごせる、安心・清潔で気持ちよく過せる、近い、仲間・友人との交流、管理人がよい他) やや不満 7.9% 不満 0.6% (敷地・施設が狭い、管理人の応接、開館時間の延長・日・祭日の開館、駐車場がない他)
問8 ボランティア	未回答 60% 有回答 40%(相談・話し相手、社会実務アドバイザー、健康チェックのできる人、送迎ボランティア、気軽に声かけられる人 他)	
利用増	参照 :問1→	講座 19.5% 広報 17.5% 友人を誘う 12.3%、情報キャッチ 9.3% OA機器 その他(送迎、駐車場、卓球、話し相手、講座充実等)
問9 男性増	参照 :問2→	未回答 73.9% 有回答 26.1%(友人を誘う、魅力ある講座の企画・実施、サークル活動の充実、広報の充実、妻が誘う、行事・大会実施 他)
問10 名称	参照 :問3→	未回答 65.4% 有回答 34.6%(いこいの家、老人をやめる、シニア○○○、シルバー○○○ 他)
問1-1 教養講座	良好 61.9%(参加人数も多く活発、映画会好評) 困る 19%(選定が難しい、内容偏り、参加に波)	
場・団体		未回答 74.2% 有回答 25.8%(野外でスポーツできるグラウンド、音楽のできる場所、少人数で自由に集まれる場所、趣味・サークル 他)
問1-2 3年限度	⓪現状維持 45% 限度無 18.3%(講師の指導で向上、要望の強い講座は弾力的に) 2年見直し 15%(3年は長い、新しい講座の要望、2年継続で評価) 1年見直し 11.7%(回転良くする、毎年見直し必要)	
問2-1 自主講座	⓪現状維持 81.7% 要改善 15%(初めての人が入りにくい、固定化や特定のグループに占有、10人以下廃止、内容充実、講座紹介、参加状況を評価、他)	
問2-2 あり方	未回答 91.7% 有回答 8.3%(初めての人を入りやすくする、地元の人と季節の工作、やる気がないと何も始まらない、オリジナルの講座で競う)	
いこいの家のあり方	参照 :問1→	他施設増 22.6% 現状 18.3% 未回答 44% 施設増 12.2% 年中無休 11.9% その他 9.3%(駐車場設置、送迎バス、自由に使用、キーボードの設置、卓球台増、尿漏れパッド廃棄可他)
問3-1 行事イベント	ある 63.3%(祭り、敬老会、おしゃべり会、演芸大会、もちつき大会、小学生との交流、大掃除他) 未回答 20%、ない 16.7%	
問3-2 実施希望	未回答 78.3% 有回答 21.7%(自主講座発表会、パソコン講座、映画会、演奏会、演芸大会、前期高齢者対象の講座、利用者家族の見学会・交流会 他)	
生き方	参照 :問5→	仲間 30.6% 趣味 30.5% 地域活動 生涯学習 12.5% 社会貢献 6.6% その他 1.2%(社会の変化にのれる、笑顔で好かれる老人、自分からやりたい事を口に出す、障害があっても自分から参加、1人暮らし緊急通報システムの完備、他)
問1 活性化	広報 20.8% 魅力ある講座 19.6% 友人を誘う 16.7% OA機器 12.5% 標示 9.5% 時間延長 8.9% 年齢下げ 8.3% その他 2.4%(名称変更、老人会の利用を増やす、利用者家族の利用の可)	← 参照 :問8

問2 男性の増	未回答 53.3% 有回答 46.7%(男性向け講座・イベントの企画・実施、声かけ誘う、ボランティアへの参加、広報充実、パソコン教室、町会・自治会との連携、現役中から会社中心の生活をしない 他)	← 参照 : 問9
問3 名 称	有回答 60%(いいこの家、○○○いいこの家、いいこの家、シニア○○○、ふれあい交流館・ふれあいの家、コミュニティーセンター、いきいきプラザ、生きがいプラザ、老人をとれば何でも可、現状でよい 他)、 未回答 40%	← 参照 : 問10
問4 必要な協力	有回答 61.7%(地域の人、行政、町会・自治会記入例全て、社会福祉協議会、管理人、グッドネイバーズ、ボランティア、送迎者、学校・保育園、家族、講座参加者、地元企業 他)、 未回答 38.3%	
問5 生き方	趣味 26.3% 友人関係 26.3% ボランティア 21.9% 社会貢献 12.5% 生涯学習 9.4% その他 1.9%(居場所づくり、高齢者同士で支えあう活動、こどもの見守りパトロール、指導者)	← 参照 : 問3
問6 区民会議	♢ 未回答 60% 有回答 40% ・区民会議の活動内容が見えない、情報を伝えてほしい。 ・行政主導でなく地域に密着した枠組みにしてほしい。 ・区民会議自体知られてない。 ・難しいことを言っても人は動かせない。 ・話し合いだけでは駄目、もっと労力を出す。 ・以前から活動している団体を知ってほしい。統制しないでほしい。 ・町会 / 自治会活動に組み込んでいきたい。 ・社協の高齢者委員会など他の組織と情報交換会、合同会議を開く。 ・近所の住民同士が話合う機会をつくってほしい。 ・有志（希望者）をサポートすべき。 ・自ら戸別訪問し、地域活動のボランティアになってほしい。 ・民生委員などと連携し高齢者を地域に引き出す行動をしてほしい。 ・魅力あるリーダーづくり。 ・若い活力を入れる。 ・子育てサロンの併設。 ・社会福祉関連の拠点を確保してほしい。 ・地域活動をする上での予算確保の方法を教えてください。 ・笑いのある人をつくること。 ・百合丘、柿生の活性化。 ・地域の 75 歳以上の人口と生活状況を知りたい。 ・現状把握と改善点が認識できた時点で提案する。	

網掛け部分は、「高齢者」専門部会のコメント又はアンケート記名コメントを示したものである。

「老人いこいの家」運営委員アンケート集計表

対象者数	89人
回答者数	60人
回答率	67.4%

あなた自身のことについて

問1:性別

1.男	2.女	未回答	合計
36	23	1	60
60.0%	38.3%	1.7%	100%

数値から(人)は省略してある

区内の「老人いこいの家」の運営委員は89人で、性別では男性が59人(66.3%)、女性が30人(33.7%)となっている。
本アンケートには、男性運営委員から36人、女性運営委員から23人の回答があった。(性別未回答1人)
運営委員は男性が多く、利用者は女性が多い。

問2:年齢

1.40未満	2.40～50未満	3.50～60未満	4.60～65未満	5.65～70未満		
0	1	9	5	16		
0.0%	1.7%	15.0%	8.3%	26.7%		
6.70～75未満	7.75～80未満	8.80～85未満	9.85以上	未回答	合計	
21	3	4	1	0	60	
35.0%	5.0%	6.7%	1.7%	0.0%	100%	

運営委員の年齢層は、70～75歳未満が35.0%と一番多く、次いで65～70歳未満の26.7%である。
また、回答の中には中年層にあたる40～60歳未満が16.7%、後期高齢者にあたる75歳以上が13.4%あった。

問3:運営経験

1.1年未満	2.1～2未満	3.2～3未満	4.3～5未満	5.5～7未満		
3	6	15	9	11		
5.0%	10.0%	25.0%	15.0%	18.3%		
6.7～10未満	7.10～15未満	8.15～20未満	9.20～30未満	10.30年以上	未回答	合計
5	5	1	1	0	4	60
8.3%	8.3%	1.7%	1.7%	0.0%	6.7%	100%

運営委員の運営経験は、2～3年未満が25.0%と一番多く、次いで5～7年未満の18.3%である。
また、回答の中には10年以上の経験がある運営委員が11.7%あった。

問4:きっかけ

1.団体推薦	2.利用者	3.ボランティア	4.地域協力者	5.その他	未回答	合計
47	3	6	6	4	0	66
71.2%	4.5%	9.1%	9.1%	6.1%	0.0%	100%

運営委員になるきっかけは、団体推薦が71.2%で圧倒的に多く、次いでボランティアと地域協力者が各9.1%となっている。
その他の中では、老人クラブ、神奈川高齢者生活協組合、柿生地区社会福祉協議会高齢者部会などがみられた。

運営に関して

問1:人数

1.現状	2.多い	3.少ない	未回答	合計
48	9	2	1	60
80.0%	15.0%	3.3%	1.7%	100%

現状のままとするが80.0%で圧倒的に多いが、多いと回答した委員も15.0%いる。
施設別にみると、多いところは18人、少ないところは13人で、14～15人のところが多い。

問2:回数

1.現状	2.多い	3.少ない	未回答	合計
35	7	18	0	60
58.3%	11.7%	30.0%	0.0%	100%

現状でよいの58.3%が一番多く、次いで少ないが30.0%である。
施設別にみると、一番多く開催しているところは7回、少ないところは1回で、3回の開催としているところが多い。

問3:利用時間

1.現状	2.要改善	未回答	合計
47	12	1	60
78.3%	20.0%	1.7%	100%

現状でよいが圧倒的に多く78.3%である。
要改善12人（20.0%）のうち10人が平日の時間延長を求めている。

問4:設備

1.現状	2.要改善	未回答	合計
32	24	4	60
53.3%	40.0%	6.7%	100%

現状でよいが53.3%で多い。
要改善は40.0%で、その内訳は次のとおり多種多様である。

- ・入浴施設の廃止及び改修
- ・駐車場の設置
- ・カラオケ機器の改善
- ・O A 機器の設置
- ・マッサージチェアの設置
- ・カーペットを畳に戻す
- ・こども文化センターと同程度の設備にする
- ・台所の改善
- ・卓球室の拡張
- ・エアコンを省エネタイプに変更する
- ・足の不自由な人用の椅子の設置
- ・座椅子の増
- ・ピンク電話を一般の電話に変更する

問5:運営費

1.現状	2.要改善	未回答	合計
30	26	4	60
50.0%	43.3%	6.7%	100%

現状でよいが50.0%で多い。
要改善は43.3%で、その主な内訳は次のとおりである。

- ・予算の増額（圧倒的に多い）
- ・管理人の増
- ・管理人の人件費の減
- ・会計担当者の増
- ・講師謝礼の増額
- ・機器類の修繕費の増額
- ・利用料の徴収

問6 - 1

:活性化への取組

* 複数○可

1. 広報	2. 教養講座	3. 予定表	4. 掲示		
16	15	12	5		
15.1%	14.2%	11.3%	4.7%		
5. Q & A	6. 改修	7. 配置換え	8. その他	未回答	合計
6	13	9	12	18	106
5.7%	12.3%	8.5%	11.3%	17.0%	100%

未回答が17.0%で多いが、回答の中では、広報への取組が15.0%で一番多く、次いで新しい教養講座の企画が14.2%であるが、回答は全体的に分散している。

その他が11.3%あり、その内訳は次のとおりである。

- ・施設の周りの山林の清掃
- ・トイレの和式を洋式に改修
- ・大広間の畳を絨毯に（足が冷えてよくない）
- ・チラシを公共機関に置いた
- ・アンケートの実施
- ・おしゃべり会の開催
- ・大広間入り口のスロープ化
- ・相談室を整理し使用できるようにした
- ・運営委員になった

問6 - 2

:できない理由

1. 資金	2. 諸規程	3. その他	未回答	合計
12	5	3	45	65
18.5%	7.7%	4.6%	69.2%	100%

未回答が69.2%で多い。

回答があった30.8%のそれぞれの内訳は次のとおりである。

資金不足では、

- ・樹木剪定の予算
- ・イベントの企画予算
- ・ピアノ調律の予算
- ・人手不足の悪循環

諸規程に抵触では、

- ・講師謝礼に制限があり優秀な人は無理
- ・電気の契約アンペア変更ができなかった

その他では、

- ・運営委員長のやる気のなさ

問7:改善点

回答有	未回答	合計
21	39	60
35.0%	65.0%	100%

未回答が65.0%で多い。

回答があった35.0%の内容は次のとおりである。

- ・運営委員会が機能してない（一番回答が多い）
- ・広報の充実
- ・予算の増額
- ・指定管理者、委員、利用者による話し合い
- ・厨房施設の充実
- ・地域の会合等で気軽に使えるようにする
- ・利用者間の差別をなくす
- ・利用料の徴収
- ・駐車場の設置
- ・人材の確保
- ・O A 機器の設置
- ・お茶の提供
- ・若者を入れる

問8: ボランティア

回答有	未回答	合計
24	36	60
40.0%	60.0%	100%

未回答が60.0%で多い。
回答があった40.0%の内訳は次のとおりである。

- ・相談・話し相手である（一番回答が多い）
- ・社会実務アドバイザー
- ・お茶を入れてくれる人
- ・健康チェックができる人
- ・落語家を目指している人
- ・包括支援センター職員
- ・ケアマネージャー
- ・子ども
- ・送迎ボランティア
- ・初めて来た人に声を掛けられる人
- ・管理人の再教育
- ・閉鎖的、独占化を見直し気軽に来れるムードづくり
- ・必要ない

行事等の企画に関して

問1 - 1

: 教養講座

1.良好	2.困る	未回答	合計
39	12	12	63
61.9%	19.0%	19.0%	100%

うまくいっているが61.9%で、困っている19.0%である。
うまくいっているの内訳は次のとおりで、ポジティブ思考（肯定的気質）が働いている。

- ・参加人数も多く、活発である
- ・担当者が熱心
- ・定期的に実施
- ・ストレッチ体操など自らの体のこと
- ・自主講座と教養講座の区別がない
- ・映画会が好評である
- ・自主的に運営
- ・長く続いている
- ・広報の充実

困っていることの内訳は次のとおりで、ネガティブ思考（否定的気質）が働いている。

- ・講座の選定が難しい
- ・他の講座と重複している
- ・予算不足で周知困難
- ・講師(指導者)の確保
- ・閉鎖的、独占化を見直し、気軽に来れるムードづくり
- ・内容に偏りがある
- ・参加人数に波がある
- ・予算不足で講師を呼べない
- ・利用者のマナー

問1 - 2

: 3年限度

1.現状でよい	2.1年で見直	3.2年で見直	4.限度なし	未回答	合計
27	7	9	11	6	60
45.0%	11.7%	15.0%	18.3%	10.0%	100%

45.0%の運営委員が3年間で限度とした現状のままでよいと回答し、次いで、特に限度を設ける必要がないが18.3%、2年程度で見直しが15.0%、1年程度で見直しが11.7%となっている。

現状のままでよいの内訳は次のとおりである。

- ・人気のある講座は期限なしでよい。ただし、3年担当した委員は交代
- ・指導者の確保と参加者数を考慮

特に限度を設ける必要がないの内訳は次のとおりである。

- ・講師の毎月の指導で向上可能
- ・講座の内容による
- ・要望の強い講座は弾力的に考える

2年で見直すの内訳は次のとおりである。

- ・新しい講座の要望がある
- ・3年は長すぎる
- ・2年で継続について評価する
- ・自主講座でよいものがあれば入れる

1年で見直すの内訳は次のとおりである。

- ・講座は限定されているので回転よくする
- ・毎年度見直しが必要
- ・講座によっては内容が薄くなる

問2 - 1

:自主講座

1.現状	2.要改善	未回答	合計
49	9	2	60
81.7%	15.0%	3.3%	100%

現状どおりとする回答が81.7%と圧倒的に多いが、改善した方がよいも15.0%ある。
要改善の具体的な理由の内訳は次のとおりである。

- ・初めての方はグループに入りにくい
- ・既得権の固定化にならないようにする
- ・特定のグループが占有している
- ・10人以下は中止にする
- ・講座の紹介
- ・内容の充実
- ・参加状況を評価する
- ・前期高齢者に配慮する

問2 - 2

:あり方

回答有	未回答	合計
5	55	60
8.3%	91.7%	100%

未回答が圧倒的に多く91.7%で、回答があった内容は次のとおりである。

- ・初めての方を入りやすくする配慮
- ・オリジナルな講座で競う
- ・抽選にする
- ・地元の人と季節の工作をする
- ・やる気がないと何もはじまらない
- ・初めての方はグループに入りにくい

問3 - 1

:行事・イベント

1.ある	2.ない	未回答	合計
38	10	12	60
63.3%	16.7%	20.0%	100%

教養講座や自主講座以外に何らかの行事・イベントを行っているとの回答が63.3%で過半数を超えている。

行事・イベントをしたことがないと未回答を合わせると36.7%になる。

あると答えた内容の主なものは次のとおりである。

- ・お祭り(一番多い回答)
- ・おしゃべり会(三番目)
- ・小学生との交流
- ・大掃除
- ・健康体操
- ・すこやか活動
- ・精神講話
- ・新入会員募集PR
- ・敬老会(二番目)
- ・演芸大会(四番目)
- ・もちつき大会
- ・演奏会
- ・手芸、盆栽
- ・ミニデイ
- ・防災訓練
- ・前年死亡者の供養

問3 - 2

:実施希望

回答有	未回答	合計
13	47	60
21.7%	78.3%	100%

未回答が圧倒的に多く78.3%で、回答があった21.7%の主な内訳は次のとおりである。

- ・自主講座発表会
- ・映画会
- ・演芸大会
- ・前期高齢者対象の講座
- ・パソコン講座
- ・演奏会
- ・旅行
- ・利用者家族の見学会、交流会

これからの活動について

問1:活性化

1. 広報	2. 標示	3. 友人を誘う	4. 魅力ある講座		
35	16	28	33		
20.8%	9.5%	16.7%	19.6%		
5. 年齢下げ	6. O A 機器	7. 時間延長	8. その他	未回答	合計
14	21	15	4	2	168
8.3%	12.5%	8.9%	2.4%	1.2%	100%

活動内容の広報に回答した委員が一番多く20.8%、次いで魅力ある講座の企画・実施19.6%、以下、近隣の人を誘う16.7%、O A 機器の設置12.5%、道案内の表示9.5%、利用時間の延長8.9%、利用者の年齢を下げる8.3%である。

その他の回答は少ないが、その内訳は次のとおりである。

- ・施設名称の変更
- ・老人会の利用を増やす
- ・利用者家族の利用を認める

問2:男性の増

回答有	未回答	合計
28	32	60
46.7%	53.3%	100%

未回答がやや多く53.3%で、回答者は46.7%である。

回答の主な内訳は次のとおりである。

- ・男性向けの講座、イベントの企画実施（一番多い）
- ・声かけ、誘う
- ・広報の充実
- ・運動部をつくる
- ・飲酒を認める
- ・町会、自治会との連携
- ・ボランティアへの参加
- ・パソコン教室
- ・いこいの家を増やす
- ・駐車場の確保
- ・現役中から会社中心の生活をしない

* 男性の利用は多い、少ないと思わないという意見も少数ながら見られた。

問3:名称

回答有	未回答	合計
36	24	60
60.0%	40.0%	100%

回答ありが60.0%で、未回答が40.0%である。

回答の主な内容は次のとおりである。

- ・いこいの家（一番多い）
- ・いこいの家○○○
- ・ふれあい交流館、ふれあいの家
- ・いきいきプラザ
- ・自遊館
- ・光の家
- ・町会や地域の名称
- ・ひらがな、カタカナ表記以外
- ・希望の家「やすらぎ」
- ・○○○いこいの家（二番目に多い）
- ・シニア○○○
- ・コミュニティセンター
- ・生きがいプラザ
- ・みどりの里
- ・花の名前を入れる
- ・老人を取れば何でも可
- ・「老人」の表記は高齢者の自覚しだい
- ・地域ふれあいサロン

問4:必要な協力

回答有	未回答	合計
37	23	60
61.7%	38.3%	100%

回答ありが61.7%で、未回答が38.3%である。

回答の主な内訳は次のとおりである。

- ・行政（一番多い）
- ・町会、自治会（三番目に多い）
- ・記入例全て（川崎市・麻生区・市社協・区社協・町会自治会・地域の人・高齢者を抱える家族・高齢者のいるご近所・ボランティア講習修了者・グッドネイバーズの方々・地域の学校などとの連携）
- ・社会福祉協議会
- ・グッドネイバーズ
- ・送迎者
- ・家族
- ・地元企業
- ・地域の人（二番目に多い）
- ・管理人
- ・ボランティア
- ・学校、保育園等
- ・講座参加者
- ・こども文化センターとの統合

問5:生き方
*3つまで○可

1.趣味	2.友人関係	3.ボランティア	4.社会貢献	5.生涯学習	6.その他	未回答	合計
42	42	35	20	15	3	3	160
26.3%	26.3%	21.9%	12.5%	9.4%	1.9%	1.9%	100%

趣味と友人関係がそれぞれ26.3%で、以下、ボランティアが21.9%、社会貢献が2.5%、生涯学習が9.4%になっている。
その他の内訳は次のとおりである。
・居場所づくり
・子どもの見守りパトロール
・高齢者同士で支えあう活動

問6:区民会議

回答有	未回答	合計
24	36	60
40.0%	60.0%	100%

未回答が60%に対して、40%の回答があった。
回答の主な内容は次のとおりである。
・区民会議の活動内容が見えない、情報を伝えてほしい(一番多い)
・行政主導ではなく、地域に密着した枠組みにしてほしい
・区民会議自体知られていない
・難しいことを言っても人は動かせない
・話合いだけでは駄目、もっと労力を出してほしい
・以前から活動してる団体を知ってほしい、統制はしないでほしい
・町会、自治会活動の中に組み込んでいきたい
・社協の高齢者委員会など他の組織と情報交換会、合同会議を開く
・近所の住民同士が話合う機会をつくってほしい、有志(希望者)をサポートすべき
・自ら個別訪問し地域活動のボランティアになってほしい
・民生委員などと連携し高齢者を地域に引き出す行動をしてほしい
・魅力あるリーダーづくり
・若い活力を入れる
・子育てサロンの併設
・社会福祉関連の拠点を確保してほしい
・地域活動する上での予算確保をする方法を教えてほしい
・笑いのある人をつくること
・百合丘、柿生の活性化
・地域の75歳以上の人口と生活状況を知りたい
・現状把握と改善点が認識できた時点で提案したい

「老人いこいの家」運営委員アンケート考察

あなた自身のことについて

問 1 性別から

- (1) 「老人いこいの家」の運営委員は男性が多く、利用者は女性が多い。

問 2 年齢から

- (1) 運営委員には、中年層である 40～60 歳未満と後期高齢者である 75 歳以上の委員もあり、多様な運営ができる可能性を秘めていると考えられる。

問 3 運営経験から

- (1) 運営経験が 2 年～7 年程度の委員が多いが、この期間は、施設のことをよく分かってきて、課題が何なのかが把握できて、実行に取り組もうと意欲に燃える期間ではなかろうか。
- (2) 市の規約では、各種委員の任期は最高 10 年までとされているので、「老人いこいの家」の運営委員もそれに準拠してはどうだろうか。
- (3) 社会の変化に応じて、施設の運営も臨機応変に運営できることが望ましい。さらに、地域の人たちができるだけ多く、地域にある公共施設の運営を経験することが望ましく、その体験が地域での高齢者を支える力になると考えられる。

問 4 きっかけから

- (1) ボランティアや地域の協力者が運営委員にいることは、これからの施設の運営に期待が寄せられる。地域社会の中で高齢者を支える大きな役割を担っていく人材を一人でも多く育成してほしい。

運営に関して

問 1 人数から

- (1) 運営委員の人数は、平均すると 15 人程度のところが多い。委員の人数や選出母体は、規約などである程度決めてはどうだろうか。

問 2 回数から

- (1) 運営委員会の回数は、3 回程度のところが多い。開催回数についても、規約などである程度決めてはどうだろうか。

問 3 利用時間から

- (1) 改善の要望は低かったが、この中では平日の開館時間の延長（17 時まであるいは夜間まで）、日曜・祝日の開館があげられている。
- (2) 今後、団塊の世代が地域に増えていくことが予測される。こうした人々の活動は、昼間は仕事の延長上にあることから、夜間に自宅

近くの地域で活動できる場所があると参加しやすくなるではないか。

問 4 設備から

- (1) 現状でよいとする回答が半数を超えているが、施設の有効活用を図り、地域の活動の拠点とするためには、公共施設としてＯＡ機器等の設置は必要ではないか。

問 5 運営費から

- (1) 現状でよいとの回答が半数を占めているが、予算の増額を求める意見もある。施設運営上必要な予算は増額を要望することも必要ではないか。

問 6 - 1 活性化への取組みから

- (1) この回答からは、運営委員が要望を出すだけでなく身近に出来ることから実行しているのが分かった。
- (2) また、運営委員になって、「老人いこいの家」の運営に積極的に関わろうとする人もいることは大変すばらしい。

問 6 - 2 できない理由から

- (1) 講師謝礼については、押さえている印象がある。市民館をはじめとして他の公共施設で講座等を行っており、それらを参考にして講師謝礼等は講師の社会的評価で判断して謝礼を出してもいいのではないか。
- (2) この場合、受講者負担を検討してもよいのではないか。地域の社会的な人材を積極的に活用するために、規則・規約等の改善は今日の社会的な要請であると考えられる。
- (3) 「老人いこいの家」の予算の仕組みが分からないが、管理、事業予算等施設で執行できる予算があると、運営委員会や「老人いこいの家」の活動が活発になるのではないか。

問 7 その他の運営改善点から

- (1) 回答数は少ないが、改善点として運営委員会が機能していないとの回答があった。「老人いこいの家」の運営に大きな支障をきたすことが考えられるので、運営委員及び運営委員会のあり方を見直すことも必要ではないか。
- (2) また、行政や公共機関では委員を公募しており、公募を実施することによって熱意とやる気のある地域の人材を登用することも必要ではないか。

問 8 管理人以外のボランティアから

- (1) 管理人は結構多忙で、来館する人を一人ひとり玄関で迎えることができないし、お茶を入れる時間もないくらい、施設中を駆け回っている。
- (2) 老人を温かく迎え入れるボランティアや話し相手・相談相手にな

ってくれる人材が必要ではないか。

- (3) また、利用者の中には、自宅から 30 分以上かけてやってくる高齢者（70 歳以上の利用者が多い）も多く、将来的には 75 歳以上の利用増が見込まれる。今から、送迎ボランティアのあり方を検討しておくことが大変重要ではないかと思われる。

行事等の企画に関して

問 1 - 1 教養講座についてから

- (1) 教養講座は、地域の社会的人材を有効に活用して、教えたり・教えられたりすることによって、知縁的關係を確立するのに重要な役割を果たしていると考えられる。その活用拡大が望まれる。
- (2) 教養講座に対する予算の充実や、参加者の一部負担などの工夫が、運営委員会でより積極的に取り上げられてもよいのではないか。

問 1 - 2 3 年限度から

- (1) 教養講座については、現状を維持しながらも、何らかの工夫を凝らしていきたいとする委員の苦労がアンケート結果に表れているように見受けられた。

問 2 - 1 自主講座

問 2 - 2 今後の自主講座への意見から

- (1) 自主講座、教養講座とも、参加しやすい環境をつくらないと初めての人には参加しにくいように感じられた。

問 3 - 1 行事・イベント

問 3 - 2 今後の実施希望から

- (1) 世代間交流として、子どもとの交流やこども文化センターと連携した行事やイベントは大切にしていきたい。
- (2) 自己表現の機会として、自主講座発表会、演奏会、演芸大会、おしゃべり会なども大切にしていきたい。
- (3) 行事・イベントが運営委員と利用者及び近隣の子どもを含めた住民、指定管理者等との交流の場になれば、「老人いこいの家」の存在が増していくのではないか。

これからの活動

問 1 活性化に向けてから

- (1) 「老人いこいの家」の利用者を増やすためには、魅力ある講座を企画し、効果的な広報を行い、近隣の人を誘いあうことが大切であると思われる。
- (2) 今後は、現役をリタイアする団塊の世代（新老人）を地域社会やその中にある施設に目を向けさせ、足を運ばせる努力が求められる。

問 2 男性の利用増から

- (1) 回答の中には、男性向けの講座、イベントの企画実施等の貴重な提案があるので工夫が望まれる。

問 3 名称から

- (1) 「老人」という言葉にマイナスイメージがあるように感じられた。少なくとも「老人」の言葉は削除した名称にした方がよいと思われる。

問 4 必要な協力から

- (1) 高齢者を地域で、手をかけ・目をかけ・心をかけ合う関係を幾重にも作っておくことが必要ではないか。

問 5 これからの生き方から

- (1) 高齢者のこれまでに蓄積した経験や資格などを地域の中で生かすことが、高齢者の生きがいとしての趣味や仲間のいる生活や元気なパワーの大きな要素になるのではないか。

まとめ

1 運営委員の選任等について

- (1) 運営委員の年齢は、65 歳～75 歳未満に集中しており、「老人いこいの家」の利用者と同年齢層になることから、利用者の立場にたった運営を考えることができるとともに、利用者にも親近感がわくのではないか。
- (2) 運営経験が 2 年以上 7 年未満の委員が多い。運営委員の任期には特段の定めはないとのことだが、地域の人ができるだけ多く、「老人いこいの家」の運営委員に携わり、地域の中でその経験を生かすことが重要である。そのためには、ある一定の年数で委員を交代する（市では原則として各種委員会の任期を 10 年と定めている）ことにしてはどうだろうか。
- (3) 運営委員は地域の名誉職ではなく、「老人いこいの家」の運営に積極的に取り組む人材が望ましい。熱意と誠意と創意のある人が運営に携わることによって、「老人いこいの家」は活性化していくに相違ない。したがって、運営委員には、団体からの推薦も必要だが、地域からの人材を募ること（委員公募の実施）も今日の社会の流れに添うことになる。また、運営委員の選出分野をある程度定めておくことが必要ではないか。

2 運営に関して

- (1) 運営委員の人数は、15 人前後の施設が多い。この人数が妥当かどうかは役割と活動内容によると思われるが、規約等である程度の目安を定めてはどうだろうか。
- (2) 「老人いこいの家」の健全な運営を目指して、次のような委員の役割がアンケートから読み取れる。
 - 魅力ある講座の企画・実施
 - 広報の充実を図る
 - 交流の促進

- 利用者の快適、安心安全な居場所、たまり場の確保及び改善
- (3) アンケート項目には無いが、上記のような役割を果たすには、運営委員の資質の向上は欠かせないものと考えられる。そこで、次のような取組を提案したい。

研修の機会を設けること

他の「老人いこいの家」の運営委員と定期的に情報交換会を開催すること

運営委員会、指定管理者、利用者の三者による意見交換会を定期的に開催すること

- (4) 運営委員会が機能していないという回答があった。運営委員会開催の回数を含めて委員会のあり方を見直すことが必要と思われる。
- (5) 運営費がどのような仕組みになっているのか不明ではあるが、運営委員会が独自に事業に対し、予算執行できる仕組みを検討する必要があると思われる。

3 行事の企画等について

- (1) 運営委員会で、教養講座に対する予算の充実や参加者の一部負担などの工夫がより積極的に取り上げられてもよいのではないかと。
- (2) 世代間交流としての子どもとの交流やこども文化センターと連携した行事やイベント、発表会・演奏会・演芸大会を企画して活性化や地域に対するPRに役立てることが必要と思われる。

4 これからの活動に向けて

- (1) 総体として、運営委員と利用者は、現在の施設運営と利用状況に満足している傾向にある。
- (2) 夜間開放、時間延長、日曜・祝日利用については、運営委員、利用者とも現状維持が多い。しかし、少数意見としてではあるが、前記提案も出ているので、利用人数増大とさらなる活性化のために考慮すべきである。
- (3) 少数意見に見られるが、施設の有効活用を図り、地域の活動の拠点とするためには、公共施設として最低限のOA機器、コピー機、FAX付き電話は設置することが望ましいと考える。
- (4) 利用者の声を聞く「意見箱」等を設置し、改善や利用者のアイデアを運営に取り入れていくシステムを図ることが必要である。
- (5) 地域に開かれてこそ「老人いこいの家」が活性化する。したがって、町会・自治会などとも連携と交流を密にし、「老人いこいの家」を積極的にアピールしていくことが望まれる。
- (6) 課題も少数意見などから知ることができた。高齢者がいつまでも元気に孤独にならないで、地域の中で活動できる拠点であってほしいと願う。

該当する番号に○を付けてください。
()にはお考えを記入してください。

1. 男性 2. 女性

問 2 年齢を教えてください。

1. 40歳未満 2. 40～50歳未満 3. 50～60歳未満
4. 40～65歳未満 5. 65～70歳未満 6. 70～75歳未満
7. 75～80歳未満 8. 80～85歳未満 9. 85歳～

問 3 運営に携わっている期間はどれくらいですか？

()年()か月 くらい

問 4 あなたが運営委員になったきっかけは何ですか？

1. 団体推薦(町会自治会、民生児童委員、保護司など)
2. 老人いきいの家の利用者として
3. 老人いきいの家でボランティアをしている者として
4. 地域の協力者として
5. その他()

運営に関して

問 1 現在の運営委員の人数をどう思いますか。

1. 現状でよい 2. 多い 3. 少ない

問 2 現在の運営委員会の開催回数をどう思いますか？

1. 現状でよい 2. 多い 3. 少ない

問 3 利用時間に関してどのようにお考えですか？

1. 現状でよい
2. 改善すべき → 改善すべきと考える具体的な内容があればお書きください。
()

問 4 利用可能な設備についてどのようにお考えですか？

1. 現状でよい
2. 改善すべき → 改善すべきと考える具体的な内容があればお書きください。
()

問 5 運営費に関してどのようにお考えですか？

1. 現状でよい
2. 改善すべき → 改善すべきと考える具体的な内容があればお書きください。
()

問 6 - 1 老人いこいの家を活性化するため、これまでに取り組まれたことがあれば教えてください。(複数の○可)

1. 利用者を増やすための広報を考えた
2. 新しい教養講座の企画を導入した
3. 1ヶ月ごとの参加可能な講座等の予定表を作成し配布した
4. 屋外の道路に面した壁面に活動内容を掲示した
5. 「老人いこいの家ってどんなところ」のQ&Aをつくり、老人いこいの家の見学者(小中学生・学校の先生・ボランティア希望者等)に配布した
6. 改修した → どこをどのように？()
7. 家具等の配置換え
8. その他 → 具体的にお書きください()

- 2 改善に取り組もうとしたが、実現できなかった主な理由はなんですか？

1. 資金不足 ()
2. 条例、規則、要綱等の諸規程に抵触 ()
3. その他 ()

問 7 その他運営に関して改善すべきと思うことがあれば具体的にお書きください。

()

問 8 老人いこいの家が今まで以上にあたたかい場となるように、管理人さん以外にいるとよいと思われるボランティアがあればお書きください。(例:一人で来られた人のための話し相手ボランティア など)

()

老人いこいの家で開催される行事等の企画に関して

問 1 - 1 現在実施されている教養講座についてどう思いますか？

1. うまくいっている → 具体的な理由 ()
2. 困っていることがある → 具体的な理由 ()

- 2 教養講座を原則として3年間を限度としていることについてどう思いますか？

1. 現状どおりでよい
 2. 1年ごとに見直した方がよい
 3. 2年程度で見直した方がよい
 4. 特に限度を設ける必要はない
- その理由もお書きください
()

問 2 - 1 現在実施されている自主講座についてどう思いますか？

1. 今のままでよい
2. 改善した方がよい → 具体的な理由 ()

- 2 今後の自主講座のあり方についてご意見があればお書きください。

()

問 3 - 1 これまでに老人いこいの家で開催された行事・イベント等がありますか。

1. ある → その中でよいと思った行事・イベントがあればお書きください
()
2. ない

- 2 今後、企画・実施してみたい行事・イベントがあればお書きください。

()

これからの活動について

問 1 老人いこいの家をさらに活性化するためはどうしたらよいと思いますか？(複数の○可)

1. 老人いこいの家の活動内容を広報する(紙媒体・ホームページ・インターネットなど)
2. 老人いこいの家までの道案内表示を充実する(交差点・最寄駅・曲がり角など)
3. 老人いこいの家利用者が近隣の人を誘う
4. 魅力ある講座を企画・実施する
5. 利用者の年齢を下げる
6. FAX、複写機、パソコン等の基本的なOA機器を設置する
7. 利用時間の延長(開館時間を午後6時までとする など)
8. その他()

問 2 今より男性利用者を多くするにはどうしたらよいと思いますか？

()

問 3 「老人いこいの家」という名前に抵抗感を持つ人がいると聞きますが、他に利用したくなるような親しみやすい名称はないでしょうか？

()

問 4 老人いこいの家を高齢者にとってさらに地域の身近な居場所とするために、どのような協力が必要と考えますか？具体的にお書きください。

【記入例： 川崎市・麻生区・市社協・区社協・町会自治会・地域の人・高齢者を抱える家族・高齢者のいるご近所・ボランティア講習終了者・グッドネィバースの方々・地域の学校などとの連携】

問 5 これからの高齢者自身の生き方はどうしたらよいと思いますか？

(3つまで○可)

1. 趣味など生きがいを持つ
2. 地域に友人仲間を持ち、孤独にならないようにする
3. 地域活動やボランティア活動で地域社会に関わる
4. 資格や経験を活かして社会に貢献する
5. 人格形成や心が豊かになるような生涯学習に励む
6. その他()

問 6 麻生区区民会議では「心が響きあう地域づくり」を目指して調査審議していますが、具体的な取組についてのご提案やお考え、その他ご意見があれば自由にお書きください。

「老人いこいの家」利用者アンケート集計表

あなた自身のことについて

問1:性別

1.男	2.女	未回答	合計
105	213	0	318
33.0%	67.0%	0.0%	100%

数値から(人)は省略してある

本アンケートには318人から回答があった。なお、男女別では男性が105人(33.0%)、女性が213人(67.0%)である。(参考～平成18年度における全市の「老人いこいの家」利用者の男女比率は、男性が46.0%、女性が54.0%)
「老人いこいの家」の利用者は女性が多く、運営委員は男性が多い。

問2:年齢

1.60～65未満	2.65～70未満	3.70～75未満	4.75～80未満	5.80～85未満	6.85以上	未回答	合計
31	66	89	63	44	24	1	318
9.7%	20.8%	28.0%	19.8%	13.8%	7.5%	0.3%	100%

利用者が一番多い年齢は、70～75歳未満の28.0%で、以下、65～70歳未満の20.8%、75～80歳未満の19.8%である。
60歳代前半と85歳以上の利用者は10.0%を下回っており、利用者に占める割合は低い。

問3:家族構成

1.一人	2.配偶者と二人	3.二世帯	4.その他	未回答	合計
49	163	75	27	4	318
15.4%	51.3%	23.6%	8.5%	1.3%	100%

配偶者と二人暮らしが51.3%と一番多く、次いで二世帯が23.6%、一人暮らしが15.4%である。
その他は8.5%で、主な内訳は次のとおりである。
・夫婦に未婚の子(一番多い)
・本人に母

問4:住所

1.区内	2.区外	未回答	合計
299	17	2	318
94.0%	5.3%	0.6%	100%

区内が圧倒的に多く94.0%である。
区外は5.3%で、多摩区や町田市など近隣地区からの回答も見られた。

問5:他の活動

1.参加	2.不参加	未回答	合計
197	107	14	318
61.9%	33.6%	4.4%	100%

何らかの活動に参加しているとの回答が61.9%で、参加していないは33.6%である。
参加している活動の主な内訳は次のとおりである。
・趣味・教養・娯楽(圧倒的に多い)
このうち、上位の回答は、卓球など運動に関するもの、体操など健康に関するもの、コーラスなど音楽に関するもの、絵画や詩など文化・芸術に関するもの、囲碁などゲームに関するものである。
・ボランティア活動
・地域の公的活動(町会・自治会活動等)

問6: 関心

1. 健康	2. 家族	3. 年金	4. 運動	5. 趣味	6. その他	未回答	合計
279	26	33	19	30	10	3	400
69.8%	6.5%	8.3%	4.8%	7.5%	2.5%	0.8%	100%

一番の関心ごとは、健康に関すること69.8%である。
 二番目以下の回答はいずれも10.0%未満で、年金8.3%、趣味7.5%、家族6.5%、運動4.8%である。
 その他の回答は2.5%で少ないが、その内訳は税金、踊り、カラオケ、旅行、病気、他人との和である。

利用について

問1: きっかけ

1. 人づて	2. 広報誌等	3. 友人の誘い	4. その他	未回答	合計
84	40	128	54	12	318
26.4%	12.6%	40.3%	17.0%	3.8%	100%

友人の誘いが一番多く40.3%、次いで人づての26.4%である。
 その後は17.0%で、主な内訳は次のとおりである。
 ・社協・民生委員等から（一番多い） ・近所だから
 ・講座等への参加 ・パンフレット・チラシ
 ・配偶者や友人・知人からの紹介

問2: 方法

1. 徒歩	2. 自転車等	3. その他	未回答	合計
200	26	86	6	318
62.9%	8.2%	27.0%	1.9%	100%

(時間)	↓	↓	↓	↓	
5分未満	35 (17.5%)	6 (23.1%)	9 (10.5%)	50 (15.7%)	
5～10分未満	54 (27.0%)	8 (30.1%)	10 (11.6%)	72 (22.6%)	
10～15分未満	52 (26.0%)	4 (15.4%)	16 (18.6%)	72 (22.6%)	
15～20分未満	19 (9.5%)	2 (7.7%)	10 (11.6%)	31 (9.7%)	* 時間不明
20～30分未満	21 (10.5%)	1 (3.8%)	11 (12.8%)	33 (10.4%)	2. 自転車～ 2
30分以上	19 (9.5%)	3 (11.5%)	19 (22.1%)	41 (12.9%)	3. その他～ 11

徒歩が一番多く62.9%で、そのうち70.5%が徒歩15分圏内である。次いでその他が27.0%、自転車が8.2%である。
 その他の主な内訳は次のとおりである。
 ・バス（一番多い） * 20分未満60.0%、20分以上40.0%
 ・家族などが送迎する車（二番目に多い） * 20分未満95.8%、20分以上4.2%
 ・電車（三番目に多い） * 20分未満45.5%、20分以上54.5%
 ・少数回答として、バスと電車の乗り継ぎ、介護タクシーがあった。
 また、方法に関係なく、所要時間のみで見ると15分未満が61.0%を占めている。

問3: 期間

1. 6月未満	2. 6月以上	3. 1年以上	4. 3年以上	5. 5年以上	未回答	合計
21	9	62	74	147	5	318
6.6%	2.8%	19.5%	23.3%	46.2%	1.6%	100%

5年以上が46.2%で一番多く、次いで3年以上の23.3%である。
 1年未満の利用者は9.4%と低く、比較的長期にわたり慣れ親しんでいる利用者が多い。

問4:回数

1.週	2.月	3.毎日	未回答	合計
163	146	2	7	318
51.3%	45.9%	0.6%	2.2%	100%

(回数)	↓	↓
1回	64 (39.2%)	19 (13.0%)
2回	43 (26.4%)	53 (36.3%)
3回	35 (21.5%)	27 (18.5%)
4回以上	21 (12.9%)	47 (32.2%)

週の利用が51.3%で一番多い。内訳としては、週1回の利用が多く、2回、3回と続く、4回以上の利用者も21人いる。
 月の利用は45.9%で、内訳としては、月2回の利用が多く、3回、1回と続く、4回以上が47人いるが、これは週と月の回数を混同したのではないと思われる。この47人を週1回に該当するとすれば週1回の利用者は増えることになる。

問5:利用法

1.個人	2.グループ	3.1+2	未回答	合計
53	217	29	19	318
16.7%	68.2%	9.1%	6.0%	100%

グループ利用が圧倒的に多く68.2%で、個人利用は16.7%である。
 個人利用とグループ利用の両方は9.1%と低く、個人利用とグループ利用を兼ねている利用者も少ない。

問6:過ごし方

*3つまで○可

1.談話	2.読書	3.休憩	4.囲碁	5.将棋	6.風呂		
59	5	14	64	5	27		
12.1%	1.0%	2.9%	13.1%	1.0%	5.5%		
7.講座	8.ミニディ	9.おしゃべり	10.リハビリ	11.その他	未回答	合計	
80	31	25	20	127	30	487	
16.4%	6.4%	5.1%	4.1%	26.1%	6.2%	100%	

その他の回答が一番多く26.1%であるが、その内訳は多種多様である。
 1～10の質問項目でみると、講座への参加が一番多く16.4%、次いで囲碁13.1%、談話12.1%である。
 介護予防関係のミニディやリハビリは、それぞれ6.4%、4.1%で利用参加は少ない状況にある。
 その他の主な内訳は次のとおりである。
 ・趣味・教養・娯楽（圧倒的に多い）
 このうち、上位の回答は、コーラスなど音楽に関するもの、体操など健康に関するもの、卓球など運動に関するものである。
 ・ふれあい喫茶
 ・ボランティア活動

問7:感想

1.満足	2.やや満足	3.やや不満	4.不満	未回答	合計
154	127	25	2	10	318
48.4%	39.9%	7.9%	0.6%	3.1%	100%

*1～4→別記あり

満足、やや満足の圧倒的に多く88.3%である。その理由は多種多様であり、主な内訳を回答の多い順に並べると次のとおりである。
 ・楽しく過ごせる（1番）
 ・近い（3番）
 ・管理人がよい
 ・環境・雰囲気がい
 ・趣味の活動ができる
 ・ミニディの料理がよい
 ・安いで、清潔で、気持ちよく過ごせる（2番）
 ・仲間、友人との交流ができる（4番）
 ・気楽で、自由に過ごせる
 ・設備がよい
 ・健康によい
 不満、やや不満は8.5%と少ないが、その主な内訳は次のとおりである。
 ・施設面積が狭い、増築した方がよい
 ・卓球室が狭く、すべる
 ・駐車場がない
 ・茶葉、石鹸がなくなった
 ・月間予定表の回覧、掲示がない
 ・管理人の応接
 ・平日開館時間の延長、休日・祭日開館
 ・ホールが狭い、室内が暗い
 ・施設の場所、立地が不便
 ・利用者にかたよりがある

問8:利用の増
*3つまで○可

1. 広報	2. 標示	3. 友人を誘う	4. 講座	5. 年齢下げ	
105	32	74	117	23	
17.5%	5.3%	12.3%	19.5%	3.8%	
6. OA機器	7. 情報キャッチ	8. 延長	9. その他	未回答	合計
50	56	48	51	45	601
8.3%	9.3%	8.0%	8.5%	7.5%	100%

魅力ある講座の設定が19.5%で一番多く、次いで活動内容の広報17.5%、友人を誘う12.3%、高齢者情報のキャッチ9.3%、OA機器の設置8.3%である。

その他8.5%の主な内訳を回答順に並べると次のとおりである。

- ・送迎する（1番）
- ・平日開館時間延長（3番）
- ・卓球をする
- ・講座の充実
- ・尿漏れパッドの廃棄を可能にする
- ・駐車場を設ける（2番）
- ・話し相手ボランティア（4番）
- ・便のよいところに建てる
- ・キーボードの設置

問9:男性の増

回答有	未回答	合計
83	235	318
26.1%	73.9%	100%

未回答が圧倒的に多く73.9%である。

回答があった26.1%の主な内訳を回答順に並べると次のとおりである。

- ・友人を誘う（1番）
- ・趣味的なサークル活動の充実（3番）
- ・男性アンケートの実施
- ・男性を優遇する
- ・行事、大会の実施
- ・魅力ある講座の企画・実施（2番）
- ・広報の充実（4番）
- ・見学会の実施
- ・映画、ビデオの上映

*現状のままでよいとの回答もあった

問10:名称

回答有	未回答	合計
110	208	318
34.6%	65.4%	100%

未回答が多く65.4%である。

回答があった34.6%の主な内訳を回答順に並べると次のとおりである。

- ・いこいの家（老人を取る）（1番～圧倒的に多い）
- ・老人をやめる（2番）
- ・シルバー○○
- ・○○センター
- ・コミュニティ○○
- ・ホットステーション
- ・シニア○○（3番）
- ・健康ハウス
- ・魅力的な名前
- ・いこいのセンター

今後の活動について

問1:場や団体

回答有	未回答	合計
82	236	318
25.8%	74.2%	100%

未回答が圧倒的に多く74.2%である。

回答があった25.8%の主な内訳を回答順に並べると次のとおりである。

- ・少人数で集まれる場（1番）
- ・野外のグラウンドなど（3番）
- ・スポーツができる場所
- ・駅に近い
- ・趣味、サークル（2番）
- ・サロン、自由に話せる場（4番）
- ・音楽ができる場所

*現状のままでよいとの回答もあった

問2:あり方
*3つまで○可

1.現状どおり	2.増改築	3.年中無休	4.夜間利用	
106	46	72	29	
20.9%	9.1%	14.2%	5.7%	
5.施設増	6.他施設増	7.その他	未回答	合計
55	104	43	52	507
10.8%	20.5%	8.5%	10.3%	100%

現状どおりが一番多く20.9%である。
2～7の改善の回答のうち、高齢者が利用できる施設を増やすが一番多く20.5%、次いで休日・祝日開館による年中無休14.2%、施設の増（中学校区の広いところは新築する）10.8%、地域活動可能のように増築する9.1%である。
その他8.5%の主な内訳を回答順に並べると次のとおりである。

- ・駐車場をつくる（1番）
- ・送迎バスが必要（2番）
- ・サロンの自由に使いたい（3番）
- ・キーボードの設置（4番）
- ・施設を近くに設置する
- ・卓球台の増設
- ・尿漏れパッドの廃棄を可能にする

問3:生き方
*3つまで○可

1.趣味	2.仲間	3.地域活動	4.社会貢献	5.生涯学習	6.その他	未回答	合計
207	208	92	45	85	8	34	679
30.5%	30.6%	13.5%	6.6%	12.5%	1.2%	5.0%	100%

仲間のいる生き方が30.6%で一番多く、わずかな差で趣味を持つが30.5%、以下地域活動が13.5%、生涯学習が12.5%である。
その他は1.2%と少ないが、主な内訳は次のとおりである。

- ・社会の変化にのれるようなこと
- ・笑顔で皆に好かれる老人
- ・自分からやりたいことを口に出す
- ・障害があっても自分から参加する

「老人いこいの家」利用者アンケート考察

あなた自身について

問 1 性別から

- (1) 福祉パルや市民館をはじめとして一般的に女性の参加が多い傾向にあるが、「老人いこいの家」の利用者も同じような傾向にある（福祉パルや他の公共施設利用や参加の一般的傾向の比率と考えられる。）。しかも、男性の利用は囲碁等に偏りがちであり、男女共同参加の対象では男性が少なく、一部では、女性から男性参加増の要望もヒアリングできた（例～カラオケ）。

問 2 年齢から

- (1) 一般的な傾向として、前期高齢者（65～75 歳未満）の利用が多く、後期高齢者（75 歳以上）の利用が少ないが、今後の高齢化の進展を考えると、後期高齢者（75 歳以上）を念頭に置いた「老人いこいの家」の利用や活動を考慮していく必要がある。
後期高齢者がいつまでも元気に「老人いこいの家」に来られ、楽しく仲間たちと過ごせる手立てを検討することが必要である。

問 3 家族構成から

- (1) 利用者のうち、一人暮らしの割合は女性が男性を上回っており、年齢が高くなれば高くなるほど女性の一人暮らしが増えるものと思われる。

問 4 住所から

- (1) 区内がほとんどであった。

問 5 他の活動から

- (1) 利用者の多くは何らかの活動に参加している。「老人いこいの家」の利用を通して、地域の様々な活動に興味・関心を持ち、そして参加し生活の幅を広げ、生活を充実し豊かにしていくことに繋がっていくとよい。

問 6 関心について

- (1) 関心の一番は健康である。今後は元気高齢者の地域参加の場として「老人いこいの家」を活用していくことで、ボランティア活動や地域での公的活動につなげていくことが大切になるのなかろうか。
(2) 個の関心から「公」へと関心が拡がることを期待したい。

利用について

問 1 きっかけから

- (1) 「老人いこいの家」に来るきっかけとしては、友人の誘いや人づてによる方法が一番効果的であるようだ。
(2) 広報紙は、男性よりも女性が多くみている。回覧だと女性が見

る機会が多く、男性は目に触れることが少ないようである。

問 2 方法から

- (1) 現在は徒歩で来る利用者が多いが、後期高齢者になると難しくなるのではないかと。将来的には、元気な高齢者だけが自力で「老人いこいの家」に来られるのではなく、歩行等の困難な場合でも来たいという意思がある高齢者には、高齢者の生きる権利として何らかの保障をする手立てが必要ではないか。
- (2) したがって、送迎ボランティアの養成や傾聴ボランティア、その人に必要な情報収集及び提供をする人材を地域の中で確立するシステムづくりが求められるのではなかろうか。
- (3) 配置基準が中学校区に1施設ということで、30分以上歩いて来る利用者もいる。また、交通の便が必ずしも便利なところに設置されていないので、バスと電車を乗り継ぐなど大変な苦勞をして来る利用者もいる。将来的には、小学校区に設置されるとより近くなって便利になり、利用されるに相違ない。

問 3 期間から

- (1) 5年以上の利用者が約半数と一番多いことは、常連の利用者で固まっていることを意味しているのだろうか。
- (2) 男性は1年未満の利用が少なく、誘われても自分の中で躊躇したり、気が進まなかったりすることがあって利用が少ないのではないかと。
- (3) 女性の方が誘われると素直に参加し、そして仲間を増やし楽しさを増やすが、男性はそのようなことがなかなかできないのではないかと。

問 4 回数から

- (1) 週1回の利用者が多いが、月4回以上の回答も47人あり、これは週と月の回数を混同したのではないかとと思われる。これが週1回に該当すれば週1回の利用者はさらに増えることになる。

問 5 利用法から

- (1) 「老人いこいの家」は、個人で利用する領域やスペースが少ないように感じられる中で、個人利用の割合(16.7%)が高いように思われる。個人利用をすることで、仲間ができたり、グループに入ったりして次のステップに進められるとよい。

問 6 過ごし方から

- (1) 講座に参加して過ごすとの回答が一番多いが、講座は、個人の意思で気軽に参加できるのがよい。ただし、講座開設には条件があって、参加者を十分に満足させるのは難しいという話を聞く。
- (2) 介護予防関係のミニディやリハビリへの利用参加が少ないように思われる。
- (3) 高齢者の活動として、知的・体力・精神力・感性を磨く場であってほしい。併せて、高齢者の生きる権利を認め保障する施設で

あってほしい。

問 7 感想から

- (1) 利用者の満足度は非常に高く、それだけ利用者には気持ちよく、楽しく使われていることになる。その陰には、管理人の気配り等のよさがあると思われる。
- (2) 不満は少ないが、利用する部屋の狭さによる増築願望がある。

問 8 利用増から

- (1) 講座を充実し利用増を図るという回答が一番多い。印刷機器やOA機器の設置されていない「老人いこいの家」が、これまでの運営委員や管理人の個人的な努力で講座等が開催されてきたことは、大変な苦勞をされていると高く評価したい。
- (2) しかしながら、これからの高齢者の地域活動の拠点施設として利用されるためには、「老人いこいの家」の最低限の条件整備として、コピー機・ファックス・パソコンは設置すべきだと考える。
- (3) これら機器設置について、区民会議として、行政や指定管理者に提言していくことが必要であると考ええる。
- (4) 夜間開放、時間延長、日曜・祝日開館について少数からの要望があった。

問 9 男性の増から

- (1) 未回答が多く、関心の程度が低かった。しかし、 の問 1 のとおりであり、男性用の講座等の開催により魅力アップを図る必要がある。

問 10 名称から

- (1) 未回答の割合が高かったが、回答の中では、現状どおりでよいと「老人」を削除し「いこいの家」にするだけでよいとする意見が多かった。
- (2) 市では、「長寿ケアホーム」の名称も付けているが、利用者にはこの名称が浸透されてないのではないかと。利用者からそのような回答はなかった。

今後の活動について

問 1 場や団体から

- (1) 未回答が多数（74.2％）であり、残念ながらこの設問の意味が理解されなかったのではないかとと思われる。

問 2 あり方から

- (1) 日曜・祝日の開館や夜間利用の要望もあるが、その必要性を強く感じるまでには至っていないのではないかと。なお、夜間利用の回答は男性に多かった。

問 3 生き方から

- (1) 今後は、地域活動をもっと活発にして、前期高齢者は地域で元

気に活動し、女性が多くなる後期高齢者は「老人いこいの家」で仲間と楽しく過ごすことができればよいのではないか。

まとめ

- 1 70歳～75歳未満の利用者が多いことは、この人たちが間もなく後期高齢者の仲間入りをする。アンケートでも、後期高齢者の利用率の低下が見られるが、今後は後期高齢者にスポットを当てた取り組みや対策が必要になるのではないか。
- 2 したがって、後期高齢者にとっては、徒歩5分～15分圏内で気軽に集える場所があることが望ましい。
- 3 現在、認知症等の限られた「グループホーム」を、後期高齢者の元気な活動にも適用して、小グループでの拠点づくりを図ることが望ましい。
- 4 地域社会の中で自助・共助の関係が確立されることが重要である。身近に後期高齢者の世話をすることのできるボランティアを育成し、活用できるようなシステムが地域社会に求められる。
- 5 後期高齢者の一人暮らしの増加が予想される。自宅を気軽に開放して、茶のみ友達や趣味の仲間等と楽しく集える機会を作り出したり、かつて存在していた「招き、招かれたりする関係」を地域社会に復活させたりしたいものである。この考えを実現する方法として「ミニいこいの家」づくりを要望したい。
- 6 例えば、地域社会にある空間を、高齢者に有効活用していく。商店街の空き店舗、学校の空き教室、廃校の活用、空き住宅、銀行の会議室、公園等を借り受けて、高齢者の活動拠点を身近に作り出していきたいものである。
- 7 「老人いこいの家」の設備充実を図ることが望ましい。高齢者の地域活動の拠点にふさわしい施設であるためには、コピー機、ファックス、パソコンは是非設置するように提言したい。
- 8 自分たちで施設の講座等のチラシを作成し、地域に広報したり、情報収集・発信やネットワークを図り、積極的に地域との交流を促進することが必要である。
- 9 管理人は2人体制を取っているが、交代制勤務であり施設に常駐しているのは1人である。人数の増加を図り、不測の事態への対応や講座等の充実などを図っていく必要がある。
- 10 利用者の満足度は極めて高いが、不満の中には施設面積の狭さの指摘から、増築の要望もある。
- 11 利用を増加させるアイデアはいろいろある。その中には、広報、標示、講座の改善の要望が多く、差し迫った課題である。
- 12 名称では、回答者の多くは「老人」の削除を要望しており、改善の実行を急ぐべきである。
- 13 今後のあり方については、増改築、施設増、他の高齢者施設の増を合わせたハード関係の改善要望があり、開設以来、年数が経過して時代の趨勢にマッチしなくなった様子が読み取れる。高齢者が気楽に集える施設としての期待に応えていただきたい。

「老人いこいの家」利用者アンケート

該当する番号に○を付けてください。
()にはお考えを記入してください。

現在のあなたご自身のことについて

問 1 性別を教えてください。

1. 男 2. 女

問 2 年齢を教えてください。

1. 60～65歳未満 2. 65～70歳未満 3. 70～75歳未満
4. 75～80歳未満 5. 80～85歳未満 6. 85歳～

問 3 家族構成を教えてください。

1. 一人暮らし 2. 配偶者と二人暮らし 3. 二世世代以上で同居
4. その他()

問 4 お住まいはどちらですか？

【記入例 ～ 1. 麻生区内(上麻生)、 2. 麻生区外(多摩区)】

1. 麻生区内() 2. 麻生区外()

問 5 老人いこいの家以外に、何か地域活動やスポーツ・文化活動に参加していますか？

1. 参加している → 具体的にお書きください ()
2. 参加していない

問 6 普段の生活で、一番関心の高い(気になっている)ことは何ですか？

1. 健康 2. 家族 3. 年金 4. 運動 5. 趣味 6. その他()

老人いこいの家の利用について

問 1 あなたが、老人いこいの家に来るようになったキッカケは何でしたか？

1. 人づてに聞いて 2. 市政だよりなどの広報誌で見て 3. 友人に誘われて
4. その他()

問 2 あなたの家から老人いこいの家までどのような方法で通われ、また所要時間はどれくらいかかりますか？

1. 徒歩で ()分 2. 自転車・バイクで ()分
3. その他 → 具体的にお書きください ()で ()分

【「3.その他」の記入例～(バス)で(5分)、(家族や施設が送迎する車)で(5分)】

問 3 あなたは、老人いこいの家を利用しはじめて、どれくらいになりますか？

1. 6ヶ月未満 2. 6ヶ月以上 3. 1年以上 4. 3年以上 5. 5年以上

問 4 あなたは、老人いこいの家を何日くらい利用していますか？

1. 週に()日 2. 月に()日 3. 休館日を除く毎日

問 5 あなたは、どのような形で老人いこいの家を利用していますか？

1. 個人的に 2. グル - プ・サ - クルの一員として 3. 1 と 2 の両方で

問 6 あなたは、老人いこいの家で何をして過ごしていますか？（3つまで○可）

- 1.お茶飲み・談話 2.読書 3.休憩 4.囲碁 5.将棋 6.お風呂
7.講座等 【8～10は要介護を対象とした活動】 8.ミニディ 9.おしゃべり会
10.機能回復リハビリ 11.その他()

問 7 あなたは、現在老人いきいの家の利用についてどのような感想をお持ちですか？

1. 満足している 2. まあまあ満足 3. やや不満 4. 不満である

* 1か2に○を付けた方は、満足している主な理由は何ですか

()

* 3か4に○を付けた方は、不満足である主な理由は何ですか

()

問 8 老人いこいの家の利用をさらに高めるにはどうしたらよいと思いますか？

(3つまで○可)

1. 施設の活動内容を広報する
2. 施設までの道案内標示を充実する
3. 利用者自身が知人、友人を積極的に誘う
4. 魅力ある講座を企画・実施する
5. 利用者の年齢制限を下げる
6. FAX、複写機、パソコン等の基本的なOA機器を設置する
7. 高齢者に関する情報をキャッチしやすい場所があるとよい
8. 利用時間の延長(現在の午後4時までを午後6時までとする など)
9. その他()

問 9 今より男性利用者を増やすにはどうしたらよいと思いますか？

()

問 10 「老人いこいの家」という名称に抵抗感を持つ人がいると聞きますが、他に利用したくなるような親しみやすいよい名称はないでしょうか？

()

これからの活動について

問 1 あなたは、老人いきいの家のほかに、麻生区に高齢者が集まれる場所や団体としてどういうものがあればよいと思いますか？

()

問 2 これからの老人いきいの家のあり方について、あなたはどうしたらよいと思いますか？（3つまで○可）

1. 現在のままでよい
2. 地域活動等ができるように部屋を増・改築してほしい
3. 日曜日も開放し、年中無休で開館してほしい
4. 夜間も利用できるようにしてほしい
5. 老人いきいの家が自宅からとても遠い。設置基準では中学校区に一つとなっているが、学区が広い地域は2ヶ所に施設を増やしてほしい
6. 老人いきいの家だけでなく、高齢者の利用できる施設をもっと地域に増やしてほしい
7. その他()

問 3 これからの高齢者自身の生き方はどうしたらよいと思いますか？

(3つまで○可)

1. 趣味等の生きがいを持つ
2. 地域に友人・仲間を持ち、孤独にならないようにする
3. 地域活動やボランティア活動で地域社会に関わる
4. 資格や経験を生かして社会に貢献をする
5. 人格形成や心が豊かになるような生涯学習に励む
6. その他()

「老人いこいの家」活性化に向けた提案

項 目		提 案 内 容	提 案 理 由	課題解決の主な担い手	解決までの期間		
					短期	中期	長期
【ハード系】	1 施 設	設置基準の変更 ・中学校区→小学校区へ	・徒歩15分圏内から通って来る人が多い →中学校区では所管する範囲が広い→ 徒歩利用圏内に設置 ・交通至便な場所での設置	【行政】			○
		「ミニいこいの家」づくり ・地域の既存施設(わくわくプラザ、こども文化センター、町会・自治会館、学校の空き教室、空き店舗等)の活用	・活動の場の拡充 ・既存施設の有効活用 ・地域や子どもなど世代間のかかわり	【行政】		○	
		増改築 ・施設の増築 ・施設の改築(浴室、ボイラー室等遊休スペースの縮小、撤去等)	・活動スペースが少ない、狭い	【行政】			○
		内装の改修 ・床の改修、壁紙の張替え等	・施設老朽化への対応 ・変わる利用者ニーズへの対応	【行政】		○	
	2 設 備	トイレの改修 ・洋式化、暖かトイレ、ウォシュレット	・生活様式に適応	【行政】	○		
		電力許容量の増加	・施設機能強化に向けた対応	【行政】	○		
	3 備 品	FAX付き電話の設置	・施設機能の向上 ・地域活動支援に向けた取組 ・利用者ニーズへの対応	【行政】	○		
		OA機器(コピー機、パソコン等)の配置	・施設機能の向上 ・地域活動支援に向けた取組 ・利用者ニーズへの対応	【行政】	○		
	4 駐車場	送迎用駐(停)車場の確保	・遠距離利用者への対応	【行政】		○	
	5 案内標示	適切な案内標示の設置	・施設への親切的な誘導 ・地域への施設の存在感のアピール	【行政】	○		

課題解決までの期間 ～ 短期 1～2年程度、中期 3年～5年程度、長期 5年以上

項 目		提 案 内 容	提 案 理 由	課題解決の主な担い手	解決までの期間		
					短期	中期	長期
【ソフト系】	6 送 迎	送迎ボランティアシステムづくり	・利用促進に向けた取組	【行政】 + 【社会福祉協議会】 + 【区民(ボランティア)】		○	
	7 広報・PR	公共施設における広報紙、チラシの配布	・利用促進に向けた取組 ・PR不足への対応	【行政】	○		
		広報紙、チラシの町会・自治会での回覧	・利用促進に向けた取組 ・PR不足への対応	【指定管理者】 + 【運営委員会】	○		
		広報紙、チラシの作成、内容の充実	・利用促進に向けた取組 ・PR不足への対応	【指定管理者】 + 【運営委員会】 + 【区民(ボランティア)】	○		
	8 ボランティア	運営ボランティア(相談・話し相手等)の配置	・利用者サービスの向上 ・管理人の負担軽減	【指定管理者】 + 【運営委員会】 + 【区民(ボランティア)】	○		
		町会・自治会など地域の関係団体からのボランティア派遣	・利用者サービスの向上 ・地域による施設運営支援	【指定管理者】 + 【運営委員会】 + 【地域の関係団体】		○	
	9 講 座	利用者ニーズに即した魅力ある講座の提供	・利用促進に向けた取組	【運営委員会】	○		
		受益者負担の検討	・魅力ある講座の提供 → 受益者負担の導入	【行政】		○	
		講師の人材確保	・魅力ある講座の提供	【運営委員会】	○		
	10 開館時間・開館日	平日の開館時間の延長(午後5時まで)	・利用者サービスの向上	【行政】		○	
		夜間、日曜・祝日の条件付き開館の拡充	・利用者サービスの向上 ・地域活動支援に向けた取組	【行政】		○	
	11 名 称	施設名称からの「老人」の削除	・「老人」のマイナスイメージの払拭	【行政】		○	
	12 資 金	運営費予算の増額	・利用者サービスの向上	【行政】		○	
	13 利用者	利用者年齢の引下げ	・利用促進に向けた取組 ・地域活動支援に向けた取組	【行政】		○	
		利用者家族の利用	・利用促進に向けた取組 ・地域活動支援に向けた取組	【行政】		○	
	14 運営委員会	運営委員会の機能の見直し ・委員構成、任期、開催回数、選出方法等	・運営委員会の活性化 → 利用者サービスの向上	【行政】 + 【指定管理者】 + 【運営委員会】		○	
	15 職員体制	職員体制の見直し ・管理人1人体制 → 職員複数配置(管理人に加え、健康チェックができる職員の配置が望ましい)	・職員体制の充実 → 利用者サービスの向上	【行政】 + 【指定管理者】		○	
	16 情報交換	利用者懇談会(指定管理者 + 管理人 + 運営委員 + 利用者)の開催	・認識の共有化 → 利用者サービスの向上	【指定管理者】 + 【運営委員会】 + 【利用者】 + 【地域の関係団体】	○		
		運営委員同士の情報交換会の開催	・認識の共有化 → 利用者サービスの向上	【指定管理者】 + 【運営委員会】	○		
	17 諸規程	柔軟な運営を実現するための諸規程の見直し	・柔軟な運営の実現 → 利用者サービスの向上、地域活動支援に向けた取組	【行政】		○	

区の課題

課題解決のための調査検討シート

～「高齢者」専門部会～

1．区の課題

標題

『心が響きあう地域づくり』
事例～高齢者が輝く地域づくり

課題の内容

～元気高齢者の地域参加や高齢者の見守りを通じて、どのように「地域づくり」につなげていくか～

[事例の絞込み]
元気高齢者の地域参加
高齢者の見守り

2．課題に対する現状の行政・区民等の取り組み

行政の取り組み

ア 緊急通報システム事業
イ あんしん見守り事業
ウ 福祉電話相談事業 など

区民等の取り組み
ア 老人クラブ友愛訪問活動
イ ボランティアによる活動
ウ わたしの町のすこやか活動 など

地域包括支援センターでの取り組み → 現状と課題の把握

3．課題の解決策のアイデア

防災・防犯への地域での取組
ア 町内会への加入促進
イ 回覧板組織の活性化

民生委員や回覧板組織への高齢者や障害者の情報の提供

4．課題解決策の具体化に向けた検討

短期的対応策

ア
イ

■主な担い手と役割
○区民

○区

○市

■予算見込み額の検討

■予算確保の手法

■達成期間

■関係部局・機関等

中・長期的対応策

ア
イ

■主な担い手と役割
○区民

○区

○市

■予算見込み額の検討

■予算確保の手法

■達成期間

■関係部局・機関等

5．課題解決により期待される効果、成果

ア
イ

6．総合計画上の位置付け

ア
イ

7．課題解決に向けた取組

ア
イ

8．課題解決への取組の評価、進行管理

評価

進行管理